



1. 新しい校舎で新しい本校の伝統を！ <今年度の合言葉> 『魂智和』

《学校づくりのねらい》

「魂智和」を合言葉とする学校づくりと、「協働的な学び」を軸とした授業実践を通して、学ぶ力を高め、自立した生徒を育成する

○「協働的な学び」＝自分の考えや行動を、対話活動を通して客観的に把握・吟味し、修正していく活動＝「思考力」「協働する力」を育成する活動

○「自立した生徒」の中核は、よりよく生きるために、いつでも・どこでも・誰とでも課題に向かうことができること

→中学校期は、「自立した大人」への準備期間として位置づける

○魂を込めて事にあたる生徒

「プライドファイブ」を誇りに生活できる生徒

○智を磨ける生徒

協働的な学びによって課題を解決していかれる生徒

○和を大事にする生徒

どんな集団でも人間関係を構築できる生徒

<生徒会を中心に、伝統的に引き継いできた『プライドファイブ』>

- 日本一の応援 — 元気あふれる「あいさつ」と「部活動」
- 完全無言清掃 — 心をそろえる（つばさ祭、無言入退場、合唱、くつ） — 地域に感謝

～思春期の子どもたち～

- ・自己肯定感が低くなり心が揺れ動くとき
  - ・親や社会に対し否定的な感情を抱くとき
  - ・人との距離のとり方にとまどうとき
- 親の構え～寄って離れて、離れて寄って  
聴く・見守る・信じること



工事 5 月中旬には終了します。もうしばらくご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いします。(特に駐車場)

魂を込め、智を磨き、和を大事にする

2. 「自立した生徒」を目指し子どもに「人間としての生き方」を諭す大人でありたい。

子どもたちの学校生活の中では、様々なことが起こります。特に人間関係のトラブルはどの学年でもどの学級でもどの部活でも起こります。大切なのは、子どもたち自身が「そのトラブル」としっかりと向き合うこと」「正しい人間としての生き方は何かわかること」です。子どもたちはこの積み重ねによって「人間関係を構築する力」をつけていきます。この積み重ねがないと大人になって大きくつまづくことになります。それを支えるのが、学校そして保護者の役割です。

人と人とが関わる二人以上の集団では、必ず「いじめは起こる」といっても過言ではないと思います。最近ではラインでのトラブルも多く見られています。そこで大事なことは、深刻ないじめになる前に、子どもたちの小さな変化、小さなトラブルを見逃さないこと、そしてそのこととしっかりと向き合わせ、どんな場合でも人の心に傷をつけることは許されないこと、共に生きるとはどういうことなのか、そしてどうしていけばいいのか、子どもたち自身がわかるよう子どもたちに諭していくことです。子どもたちは、たくさんの失敗や間違いを通して、人間としての生き方を学んでいくのです。その積み重ねによって子どもたちは「自立」していくのです。ぜひ我が子もそしてとなりの子も、正しい人間として生き方を身に付けていくことができるよう皆様のご理解とご協力をお願いします。

3. 加配していただいている職員について 4. 子ども・保護者・教師の信頼関係がすべての土台！

□信州少人数教育推進事業等(県より)

- ・30人規模加配1名
- ・児童生徒支援加配1名
- ・養護教諭複数配置1名

※県の事業費40億9530万円

□支援員等の配置(市より) 4名

本校では、教職員の不祥事の撲滅、人権感覚の高揚、コンプライアンス研修を積み重ね、校長からも指導を繰り返して行っています。子どもたちの教育は、子ども・保護者・教師の信頼関係がなければ成り立ちません。何か不安なことがありましたら遠慮なく担任へお伝え下さい。

どんなことでもお気軽にご相談下さい。

相談窓口 岩松教頭・内山養護教諭・柘津特別支援教育コーディネーター スクールカウンセラーと

## 今後の部活動について

日本のスポーツ・文化活動は、主に「学校」を中心に発展してきた

しかし

⇒部活動を設置する法的義務はない

○中学校学習指導要領(※ここに記されていることは法的義務)では

「生徒の自主的・自発的な活動」

「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意する」

⇒ほとんどの学校では部が設置され教員が顧問を受け持っている(日本だけで培われてきた伝統)

○全国公立中学校の94%の学校が全員顧問となっている。(本校も全員顧問)

⇒部活動指導と教員の勤務・給与体系には矛盾がある「働き方改革」の大きな課題!

○部活動は主に勤務時間外に行われる。本校の教員の勤務時間は、8時10分から16時40分まで平日は時間外勤務手当なし

※校長が時間外勤務を命じることができるのは、次の場合で臨時又は緊急でやむを得ない時

- ・校外実習その他生徒の実習に関する業務
- ・学校行事に関する業務(修学旅行的・遠足的行事)
- ・教職員会議に関する業務(生徒の生命及び非行に係わる緊急の対策のみ)
- ・非常災害等やむを得ない場合に必要業務

- 生徒・保護者のニーズの多様化
- 「やりすぎでは」「もっとやって」「やりたいのに部がない」
- 「もっと専門的な指導を」「もっとゆるくして」等等
- 教職員の負担「働き方改革」の時代 学校は「超ブラック企業」
- 「朝・放課後・休日に時間をとられる」「経験がないので専門的な指導は無理」等

法的には設置義務のない部活動を、子ども達にスポーツ・文化活動の素晴らしさを経験させることを通し、人間力をつける教育的意義の大きさから、学校(先生方)の善意で支えてきた活動! たくさんの課題や矛盾がある中で、学校だけでは、もはや対応できない時代にきている! 「やるのが当たり前」でもなく、「やってもらうのが当たり前」の時代でもない。

⇒「スポーツ・文化活動に価値を見出したい生徒・保護者・社会」が、そのニーズに応える場を学校以外に見出していく時代。

どのようにしていけばよいか?

⇒急に変えていくことは不可能だが・・・地域のクラブに移行していく

||  
コミュニティスクール「チームつばさ」で「つばさクラブ」を立ちあげた。当面、従来の「部活動」と「つばさクラブ」の試行によって、その成果と課題を明らかにし進めていく。

「つばさクラブ」イメージ  
○地域で子どもたちの文化・スポーツ活動を保証していく



地域  
チームつばさ  
「つばさクラブ」

学校  
「部活動」

子どもたちに文化・スポーツ活動の価値を保証するために、学校・家庭・地域が智恵を出し合う時です!

「つばさクラブ」の基本的考え方

- 参加は任意とする(希望する生徒・価値を認める保護者が加入)
- 加入者は「スポーツ安全保険」に加入する  
※学校管理下ではない。通知も「つばさクラブ責任者名」で出される。
- 指導者は「チームつばさ」運営委員会が委嘱する※地域の指導者が望ましいが、いない場合は学校の顧問を委嘱する。できるだけ地域の指導者を探して欲しい。
- 活動計画等は委嘱された指導者と部活動顧問が連携して作成し、過度な負担が生徒にかからないよう配慮。

「部活動」は学校教育の一環であり、学校管理下の教育活動。「つばさクラブ」は「部活動」の教育的意義に配慮した生涯学習の一貫として行われる社会教育活動。